

黒西中だより

TEL 048-768-5454

心のホット相談室 TEL 048-764-1110

<http://kuronishichu.style.cocacn.jp/>



第 2 号

令和 3 年 5 月 1 日

生徒数

1 年	9 8 名	3 学級
2 年	1 0 7 名	3 学級
3 年	9 1 名	3 学級
4 組	1 名	1 学級
5 組	2 名	1 学級
合計	2 9 9 名	11 学級

先人の生き方を真似てみる — 父からの手紙に想う —

校長 青野 保

温かな陽気のせいでしょうか、藤の花が例年よりも早く満開を迎え、独特な花の香りが大型連休シーズンの訪れを告げているようです。

4 月 8 日の入学式・始業式から早いもので約 1 ヶ月が過ぎます。学級の組織づくりや授業の開始、部活動への入部等、どの学年も概ね順調に進み、いよいよ本格的な黒西中生活が始まりました。学校は活気に溢れています。

度々私事を書いて恐縮ですが、5 月 2 日は私の実父の誕生日で、この時期になると父からの手紙をよく思い出します。手紙は、私が一年間アメリカに留学した時の現地到着直後に届きました。「振り返らずにエスカレータを降りていくのを見て安心した」という書き出しで、私が成田空港で出発ロビーに向かう際の父の心境が綴られたものでした。自分で決めたこととはいえ、家族や友達と離れて未知の世界で暮らすことに、希望や期待よりも不安があったのを覚えています。私以上に家族は心配していたのでしょうか。そんな不安を少しでも和らげることができたことに安堵したこと、また、絶対に無事に帰国すると決意した記憶がよみがえります。実は、「振り返らずに出発する」ことは、私が尊敬する登山家であり冒険家である植村直己さんのエピソードを真似たものです。植村さんは生涯で数え切れないほどの冒険をしましたが、出発の時に妻の公子（きみこ）さんのことを振り返ることをしないと決めていたそうです。それは、「一旦決意したら後ろを向かず前進するのみ」を体現する、それが後に残された人たちを安心させることになると考えたからだ。「英語ができないフランス語ができないなどと言っていたら、一生外国など行けないのだ。男は、一度は体を張って冒険をやるべきだ。」と語った植村さんに感化されて実践（真似）したことが、応援してくれた人にそして自分自身の心の支えになったことを知った出来事でした。

私は、自分に感銘を与えたり強く共感したりする人の生き方（実践）を真似てみることは素晴らしいことだと考えています。それは、先人たちが試行錯誤を重ね成果を実証してきたことを踏まえた追体験だからです。もしかしたら、効率的な生き方とも言えるかもしれませんが。その意味からも、たくさんの本を読んだり映画を観たりすることは大切なことです。「夢に向かって 自ら学ぶ 豊かで たくましい生徒」を目指す本校生徒には、このことを強く望みたいと思います。

藤の花が終わると暑い季節を迎えます。藤の花の清々しさを忘れず、日々の生活を充実させていきましょう。

【植村 直己（うえむら なおみ）】兵庫県出身。登山家・冒険家。

・1970 年、世界最高峰エベレストに日本人で初めて登頂した。同年、「世界初の五大陸最高峰登頂者」となる。1984 年、厳冬期のマッキンリー（現・デナリ）に世界で初めて単独登頂し、この下山中に消息不明となった

